

(別記)

## 奥出雲町地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、全水田面積に占める主食用米面積の割合が約 80%で、転作作物に占めるソバ、飼料作物、大豆、加工用米の面積が多く、土地利用型作物の担い手への集積が進んでいる。

しかしながら、主食用米の需要が減少する中で、他の作物の作付けに転換を促進することで、水田面積の維持を図っていく必要がある。

また、農家の高齢化が進んでおり、農家戸数の減少が見られるとともに、山林に接した田では不作付地の拡大が進んでいる。このため、人・農地プランの話し合いを進め、地域の中心となる経営体を明確にし、農地中間管理機構を活用し農地の利用集積を図ることで農地を有効活用する必要がある。

そのほか、ソバ、大豆等については、排水不良の不適正等により反収の低下を招いており、是正が必要になっている。

### 2 作物ごとの取組方針

#### (1) 主食用米

奥出雲仁多米の全国ブランドとしての地位を確立するため、肥培管理等栽培体系の統一を図り高品質な物を安定的に生産することで需要者との結びつきを強める。

また、酒米については、地元酒造メーカーから増産要望があるので、増産分については、生産数量目標の外枠での生産を行う。

#### (2) 非主食用米

##### ア 加工用米

地元の実需者（みそ・醤油）との結びつきを強化するため、複数年契約による安定取引や生産者の作付規模の拡大や集団化により生産性の向上を図り、需用者からの要望も踏まえつつ生産面積の拡大を図っていく。

##### イ 飼料用米

主食用米（仁多米コシヒカリ）を積極的に生産していくが、需要量以上の生産が見込まれれば、同一品種の加工米、または、同一品種の飼料用米（全農スキーム）を生産し、集団化を図りながら水稻の作付面積を維持する。

##### ウ WCS 用稲

現在 4 戸の酪農飼育農家において、WCS 用稲の生産が行われており、耕畜連携による資源循環や団地化を推進し、今後も生産数量を維持する。

(3) そば、大豆

そばについては、地域の実需者から安定的な供給が求められており、需要に応じた生産を維持する。また、高品質のそばを生産するため品種の選定及び共同乾燥調整施設の活用を進め作付面積の拡大、集団化を進める。

大豆については、法人を中心に自家加工販売が行われている。今後も地産地消を推進し作付面積の拡大、集団化を進める。

(4) 飼料用青刈り稲

和牛肥育農家からの需要があるので、今後も団地化による生産性の向上を図りながら、需要に応じた作付けを推進する。

(5) 飼料作物

畜産が盛んな地域であり、和牛肥育農家からの需要があるので、集団化による生産性の向上を図りながら、地域内流通を促進し、生産農家、畜産農家間の流通・販売体制の定着を図り、契約栽培を拡大し、粗飼料自給率の向上に努めていく。

(6) 野菜・雑穀・花卉・果樹

少量多品目の需要栽培だが、産直市場を中心として販売され農家所得に繋がっている。今後も産直市場への安定的な供給を図るために、販売品目と生産者の拡大を図る。

(7) 不作付地の解消

現行の不作付地（約 64ha）について、今後 5 年間で約 2 割（10ha）を飼料作物等の作付けにより解消を図る。

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 25 年度の作付面積 (ha)	平成 27 年度の作付予定面積 (ha)	平成 28 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	1,401.9	1,387.3	1,380.0
酒造好適米(外枠分)	0	1.6	1.6
飼料用米	0	23.0	30.0
WCS用稲	0.7	3.0	5.0
加工用米	6.6	9.0	12.0
飼料用青刈り稲	0.1	0.4	0.4
大豆	5.7	6.0	10.0
飼料作物	12.7	16.5	30.0
そば	28.8	40.0	50.0
その他地域振興作物	16.5	20.5	25.0
野菜	8.5	14.0	15.0
雑穀	2.0	1.1	5.0
花卉	2.0	2.0	3.0
果樹	1.2	1.0	2.0
地力増進作物	0.5	0	0
景観形成作物	2.3	0	0

### 4 平成 28 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 25 年度 (現状値)	平成 27 年度 (予定)	平成 28 年度 (目標値)
1	加工用米	集団化	イ	実施面積	6.6ha	9.0ha	12.0ha
2	そば	集団化	イ	実施面積	28.8ha	40.0ha	50.0ha
3	大豆	集団化	イ	実施面積	5.7ha	6.0ha	10.0ha

※「分類」欄については、要綱（別紙 11）の 2（5）の ア、イ、ウのいずれに該当するか記入して下さい。  
（複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入して下さい。）

- ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
- イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
- ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組

### 5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 地域農業再生協議会が水田フル活用ビジョンを策定する場合には、都道府県水田フル活用ビジョンの後に添付してください。